

# ルーブリックを統合実習に導入して

～主体的学習への効果の検討～

京都第二赤十字看護専門学校

甲賀 純子 角 典以子 小田 初美

**要旨：**当校では、学生が自ら立てた目標に向かって主体的に学習する能力と、自己評価する能力を身につけて欲しいという願いを持って、実習指導者・教師と対話を通して自己評価を行い、結果ではなく学習活動のプロセスを重視し、学生自らが体験を意味づけし、今後の目標と取り組むべき課題を明確にしてきた。しかし、実習の評価を行う中で、到達状況や課題とする根拠について学生と実習指導者の認識が異なり、学生に実習で身に付けさせたい能力が本当に身に付いているのかが具体的にないことが課題として挙げられた。そこで、統合実習において「指導と学習にとって具体的な到達点の確認と次へのステップの指針となる」<sup>1)</sup>ルーブリックを活用した実習を行った。ルーブリックを活用したことにより、学生は統合実習で付ける力が明確となり、学生は自らの課題を意識して主体的に学習し実習に取り組めたことが分かった。

**Key words：**パフォーマンス評価、ルーブリック、実習評価、主体的学習、統合実習

## I. はじめに

当看護専門学校では、学習者に重点を置き、学習者を取り巻く社会的な状況、実際の日常生活に関連する意欲、他者との相互作用などの実体験を通して学習することに関心が払われる考え方に基づいた教育への転換の必要性を感じ、経験型実習を導入した。「経験型実習」とは、教師の価値観に基づく看護を学生に学ばせ、行動の形成に焦点が当てられた「指導型実習教育」と比べ、学生自身の経験に焦点を当て、「経験の意味づけによる学生の看護観の形成を援助すること」<sup>2)</sup>を目指した実習教育の考え方である。経験型実習教育においては、学習者を成人と捉え、学習者の経験を貴重な学習資源とし、学習者自身の自己学習を支援・促進することを焦点化している。

経験型実習においては、学生が一つの体験を内的な吟味を通して深く理解し、次の経験に活かすため、学生自ら意味づけをしていくというプロセスを大切にしたいと考え、リフレクション（省察・内省の意、「Ⅲ.用語の定義」参照）を導入した。また、学生は自分が描く看護師像を目指し、実習目標を念頭に置きながら、自ら目標を立てて、そ

れに向かって主体的に学習する能力を身につけて欲しいという思いで、ポートフォリオ（目標に向かうための学習活動の過程や成果などの記録や作品の意、「Ⅲ.用語の定義」参照）も導入してきた。

自らが立てた目標に向かうためには、自己評価する能力が必要となるが、学生個人の力では見方が偏ってしまう。そのため、実習指導者・教師と学生が対話を通して、結果ではなく学習活動のプロセスを重視して振り返りを行うことで、学生は自己評価を行い自らの課題を明確にしてきた。そして同時に、実習指導者と教師は自らの指導を評価してきた。

しかし、実習の評価を行なっていく中で、「できた」や「～な力が付いた」と評価した到達状況や評価の根拠の認識が学生と指導者では異なり、何を持って（評価規準）・何故そのレベルにしたのか（評価基準）が曖昧なこと、実習で身に付けさせたい能力が本当に身につけているのか、学力の保証ができていないのかが、学生と指導者にとって具体的にないことが課題として挙げられた。そこで、当看護専門学校では、実習で起こる複雑で不確実な一回性の出来事に対応する看護実践力を適切に評価できるパフォーマンス評価

(様々な知識や技能を一定の評価基準にしたがい、その人の振る舞いを評価することの意、「Ⅲ. 用語の定義参照」と、「指導と学習にとって具体的な到達点の確認と次へのステップの指針となる」<sup>3)</sup> ループリックを導入した。

臨地実習では、自分の考えや感じたことを表現し、それを実践に移して対象に援助するという言わばパフォーマンスの連続であり、それを積み重ね評価することによって確かな学力が身についていく。パフォーマンス評価を行なうための評価規準・基準表が「ループリック」である。ループリックは実習目標に照らして、身に付けたい学力の観点を「評価規準」とし、その到達レベルを「評価基準」(数値的な尺度 (scale), 評価規準に対して、どんな力があると・どんな数値になるか)として表した。

これまでの先行研究において、統合実習でループリックの効果を検討した研究は無かった。そこで今回、統合実習でループリックを活用した実習評価を行い、分析・考察したので報告する。

## Ⅱ. 研究目的

ループリックを導入することで、学生が統合実習の目標に照らして、身につけたい力を意識し、具体的な到達点の確認と自らの課題を把握しながら実習に取り組むことが出来たのかを分析する。

## Ⅲ. 用語の定義

### 1. リフレクション

単なる振り返りではなく省察・内省の意味であり、経験によって引き起こされた気付きなことに対して、自分自身の感情やものの見方・考えなどを省みて、自己の活動や学習の意味づけ・理論との結びつけを行う探究の過程である。

### 2. ポートフォリオ

ポートフォリオとは、紙挟み・作品集を意味し、バラバラのものを1つにまとめる機能がある。目標に向かうための学習活動の過程や成果などの記録や作品(臨地実習においては、疾患・看護について調べたもの、指導者からのアドバイスの内容、思考過程の中で生まれたもの等)をどんどん綴じていく。区切りのときや最後に「知の再構築」を

行い、それまで自分が学んできたプロセスを俯瞰することで“価値あること”が見えてくる。ポートフォリオで目指しているのは主体性であり、意欲・関心を高めることで理解を深めていき思考力・判断力を培うことである。

### 3. パフォーマンス評価

パフォーマンスとは、「自分の考え方や感じ方といった内面の精神状況を身振りや動作や絵画や言葉などの媒体を通して外面に表現すること」<sup>4)</sup>であり、パフォーマンス評価とは、「ある特定の文脈のもとで、様々な知識や技能などを用いて行われる人の振る舞いや作品を直接的に評価する方法」<sup>5)</sup>のことである。

### 4. ループリック

「評定尺度とその内容を記述する指標から成り立っていて『評価指針』と訳される。ループリックは、実習目標に照らして、身につけさせたい学力の観点を『評価規準』とし、その到達レベルを『評価基準』として表しており、この評価指針は学習課題に対する学生の認識活動の質的な転換点を基準として段階的に設定」<sup>6)</sup>される。

### 5. チェックリスト

評価規準・基準表だけでは、具体的に何を考えれば良いのか(思考・判断)、何が分かれば良いのか(知識・理解)、何が表現できれば良いのか(表現)、何ができればよいのか(技能)、どのように取り組めば良いのか(関心・意欲・態度)などについて、具体的な学習に取り組みにくく評価もしづらいため、学習に取り組みやすいよう学力の重要な要素を身につけるための具体的な指標を示したものである。(図1)

## Ⅳ. ループリックを活用した評価方法の実際

学生と実習指導者・教師の三者が同じループリック・チェックリストを活用しながら実習を進めていった。実習の中間と終了時には、ループリックを用いて三者で相互評価を行い、具体的な到達点の確認と課題を明確にすることで、学生が今後の看護実践に繋げられるようにした。

統合実習ルーブリック				チェックリスト			
評価規準 評価基準	1. 複数患者への対応 優先順位の判断力	2. 患者への看護実践力	...	観点	1. 複数患者への対応 優先順位の判断力	2. 患者への看護実践力	...
4 (素晴らしい)	複数患者と病棟の状況を踏まえて、適切に優先順位を自分で考え、自分の意志を示して行動することができる。	受け持ち患者に対して、患者の看護計画を念頭に置きつつ、その場の患者のニーズを捉え、個性をもって安全・安楽に援助できる。	...	目標達成の 確認指標	<input type="checkbox"/> 1-1)受け持ち患者の状態を把握している。	<input type="checkbox"/> 2-1)複数の受け持ち患者の看護計画を把握している。	...
3 (良いね)	複数患者と病棟の状況を踏まえて、優先順位を自分で考えて行動することができるが、個性がない。	受け持ち患者に対して、患者にとっての看護目標は踏まえていないが、その場のニーズに対応できていて、安全・安楽に援助できる。	...		<input type="checkbox"/> 1-2)病棟の1日の流れを把握している。	<input type="checkbox"/> 2-2)複数の受け持ち患者に対して、患者にとっての検査事項を把握している。(健康上の問題、ニード、苦痛)	...
2 (あと一歩)	自分ができることや目の前のことに対して行動しようとしていたり、あるいは決められたことを行うのが精いっぱいな状況である。また、行動の根拠は適切ではないが、自分の考えがある。	受け持ち患者の情報を収集し、必要な援助は何か捉えており、原理原則に基づいて援助しているが、応用が難しい。	...		<input type="checkbox"/> 1-3)病棟の週間予定を把握している。	<input type="checkbox"/> 2-3)患者にとって、より良い援助をしようと、根拠を持ち計画している。(三側面、治療処置、原理原則、理論)	...
1 (努力が必要だね)	行動に自分の判断や考えはなく、全て行きあたりばったりであったり、他者から言われたことを実行している。	受け持ち患者の情報を収集し、必要な援助は何か捉えているが、安全・安楽に援助できない。	...		<input type="checkbox"/> 1-4)看護部目標、病棟目標を把握している。	<input type="checkbox"/> 2-4)受け持ち患者に応じた看護を、患者にとっての安全・安楽を重視して実践している。	...
					.	.	

図 1 総合実習のルーブリックとチェックリスト (一部抜粋して掲載)

## V. 研究方法

1. 研究対象：当看護専門学校3回生39名(回収率100%)
2. 調査期間：平成26年12月24日(統合実習終了翌日)から平成27年1月9日
3. 分析方法：統合実習終了後に独自の質問紙によるアンケート調査を行い、評価指標の割合と自由記載の内容から分析した。
4. 調査項目：質問内容は以下の4項目とした。
  - 1) ルーブリック・チェックリストは、統合実習でどんな力を付ければ良いか参考になった。
  - 2) ルーブリック・チェックリストは、実習目標を設定するときの参考になった。
  - 3) ルーブリック・チェックリストは、自らの目標に向かって学習計画を立てるのに役立った。
  - 4) ルーブリック・チェックリストは、実習目標と現在の自分の状況を把握して、今後の実習の見通しを立てて計画的に実習を進めるのに役立った。
5. 評価指標：「非常に当てはまる」、「かなり当てはまる」、「大体当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」の5段階とした。

## VI. 倫理的配慮

研究者所属の看護部倫理委員会の審査を受けて承認を得た。

研究対象者となる学生には、口頭と紙面上で以下の内容を説明し同意を得た。

〈学生への説明内容〉

本研究は無記名によるアンケート調査のため、協力者のプライバシーは保全される。また、データ分析については、集計結果のみを公表するため、個人の統合実習の成績には一切影響しない。本研究の参加は、随時拒否・撤回することが可能である。これによって、協力者が不利益な扱いを受けることが無いことを保証する。結果の公表については、得られた結果は看護学会で発表する予定である。

## VII. 結 果

1. 質問①『ルーブリック・チェックリストは統合実習でどんな力を付ければ良いか参考になった』

質問①に対しては、「チェックリストを用いることで、不足していることを具体的に理解したうえで、不足を補おうと意識して実習できた」「適宜、自分の到達度がチェックでき、何を経験したり、動いたり、考えたりしたら良いのかが分かつ

て良かった」「これまでは評価表の目標を見ても、具体的にどうすれば達成できたのかという指標が無く、評価しづらかった。しかし、ループリックでどうすれば良いのかが分かったので、評価しやすかった」「自分がどの程度理解し、行動に繋がられているかという目安にすることはできた。その上で、どうやって到達するべきかという方法を相談することができた」などの意見があり、97%の学生が非常に当てはまる～大体当てはまると回答している。(図2)

一方で、『『できた・できなかった』と割り切って評価しにくかった』『チェックリストに書いてある通りには、常に行動できなかったので到達度としてどう評価すれば良いか迷った』『どんな力を付ければ良いかが示されているため、どのような行動をしていけば良いかが明確であった。しかし、書いてあることだけに捉われ過ぎるのも良くないのではないかと思った』という意見もあった。

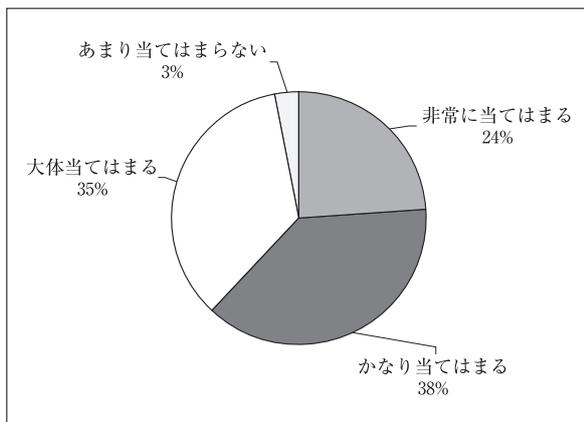


図2 質問①「ループリック・チェックリストは、統合実習でどんな力を付ければ良いか参考になった」(n = 39)

## 2. 質問②『ループリック・チェックリストは、実習目標を設定するときの参考になった』

質問②に対しては、「統合実習で複数患者を受け持つという初めての实習なので、何を目標にしようかと分からなかったが、ループリックを見ることで、これが出来たら良いという目標を設定することができた」「自己の目標を意識して実践できるほど具体的にイメージしやすかった」「自分がどこを目指していきたいかを考える参考になった」「他の学生と気をつけていくことなどについて、食い違うことなく話することができた」な

どの意見があり、76%の学生が非常に当てはまる～大体当てはまると回答している。(図3)

一方で、「実習要項を参考に目標を設定したので、ループリック・チェックリストは参考にしなかった。しかし、結果的に自分の目標とのズレは感じなかった」「自分の学びを無理やりあてはめている感じがして、表現できなかった」という意見もあった。

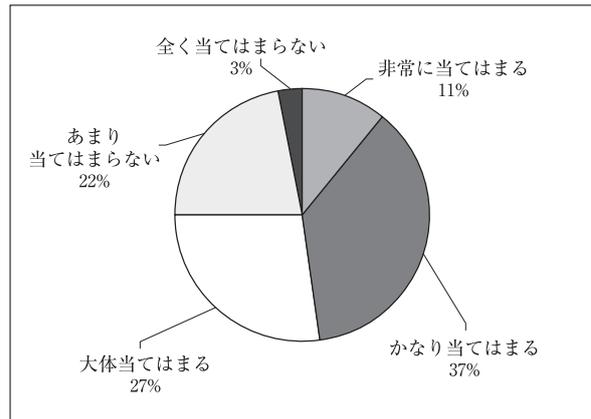


図3 質問②「ループリック・チェックリストは、実習目標を設定するときの参考になった」(n = 39)

## 3. 質問③『ループリック・チェックリストは、自らの目標に向かって学習計画を立てるのに役立つ』

質問③に対しては、「今後の課題が明確化でき、適宜その部分を強化できた」「自分には何が足りないのか、振り返った時に明確になった」「何を評価基準とするのかが分かったので、それを活用しながら対象理解を深めていくことに繋げることができた」「ループリック・チェックリストを常に見られるように工夫したので、できていないことが分かりやすく学習計画を立てやすかった」などの意見があり、87%の学生が非常に当てはまる～大体当てはまると回答している。(図4)

しかし、「これまでの実習の経験から学習計画を立てた。ループリックはあまり意識していなかった」という意見もあった。

## 4. 質問④『ループリック・チェックリストは、実習目標と現在の自分の状況を把握して、今後の実習の見通しを立てて計画的に実習を進めるのに役立つ』

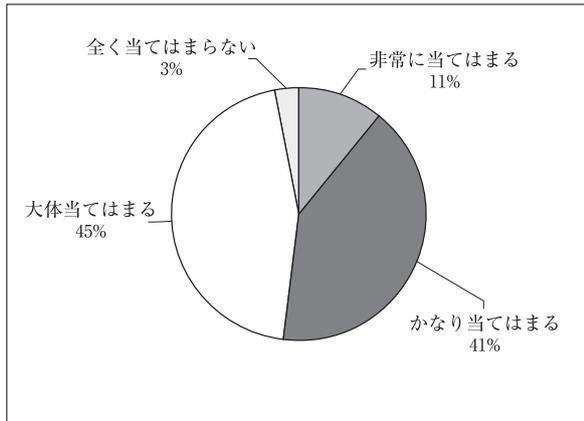


図4 質問③「ルーブリック・チェックリストは、自らの目標に向かって学習計画を立てるのに役立った」(n = 39)

質問④に対しては、「自分の状況を冷静に見直すことができた。計画を立てて、実習を進めることができた」「出来ていること・出来ていないことがはっきりするので、自分があと何に取り組めば良いのか分かりやすかった」「中間評価時に自分がどの段階まで出来て、どこが足りないのかを見直すことにより、後半からの実習を意識して行えた」「チェックリストを活用することで、不足していることを具体的に理解した上で、不足を補おうと意識して実習できたと考える」などの意見があり、97%の学生が非常に当てはまる～大体当てはまると回答している。(図5)

しかし、「中間評価や最終評価の時にのみ見ていたため、計画的に実習を進めるには役立たなかった」という意見もあった。

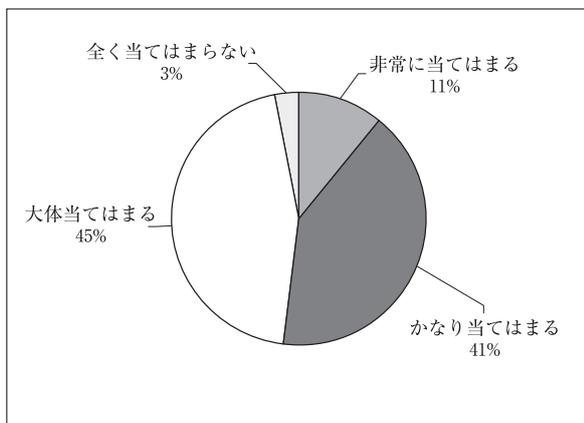


図5 質問④「ルーブリック・チェックリストは、実習目標と現在の自分の状況を把握して、今後の実習の見通しを立てて計画的に実習を進めるのに役立った」(n = 39)

## Ⅷ. 考 察

ルーブリックを活用したことで、多くの学生は統合実習でどんな力を付ければ良いのかが明確になり、自分の実習目標を設定して学習計画を立案しやすくなったと考えられる。また、実習経過の中で、自分の到達状況も把握でき、自己の課題を意識して後半の実習に取り組みやすくなっており、主体的に学習に取り組むことが出来ていたといえる。

一方で、上手く活用できなかった学生は、統合実習で初めてルーブリックを用いた実習を行ったので、今までの実習の進め方が習慣化されており、実習目標を立てる時や実習中にルーブリックを活用せず、実習評価の時にのみ見ていた。これは、具体的なルーブリックの活用の方法が理解できていなかったことが要因であったと考える。また、別の要因として統合実習以前の実習で行ってきた「行動目標」で評価する方法で、その時々での行動の結果を「できた・できなかった」と評価している学生もおり、ルーブリックを用いた自己評価が十分理解できていなかったと考えられる。

したがって、ルーブリック・チェックリストをどのように活用しながら実習を進めていくのかは、実習指導の中でも意識していく必要がある。具体的な活用法としては、実習前のオリエンテーションで、ルーブリックとチェックリストの活用方法を再確認したり、実習の目的・目標とルーブリックの内容との関連性を考えさせることが必要である。また、実習中にも、看護の方向性に迷った際には、学習の視点に気づけるように示唆したり、中間的・総括的評価のときに、学生・実習指導者・教師の三者で、実習の状況を確認しながら、何が学べ、何が課題なのかを明確にして、今後の方向性を確認し合うことが必要であると考えられる。

また、当看護専門学校では経験型実習を取り入れたときから、行動目標による点数化の実習評価から、実習目標に対して学生が自らの言葉で自由に文章化して学びを振り返る評価を行っていたため、「自分の学びを無理やり当てはめている感じがして表現できなかった」という意見があり、体験を通して感じたことや考えた様々なことを表現できないという違和感を感じた学生もいたと考える。

## Ⅸ. 結 論

1. ループリックを導入したことで、学生は統合実習で付けたい力が明確となり、自らの課題を意識して主体的に学習し、実習に取り組むことができた。
2. ループリックを効果的に実習に取り入れていくためには、ループリックの活用方法をより具体的にしていく必要がある。
  - 1) 実習前
    - (1) 実習オリエンテーションで活用方法の再確認を行う。
    - (2) 実習の目的・目標とループリックを関連させて考えられるように示唆する。
  - 2) 実習中
    - (1) 看護の方向性に迷った際には、学習の視点に気づくよう示唆する。
    - (2) 中間的・総括的評価の際に、学生・実習指導者・教師の三者で、何が学べ・何が課題なのか、今後の方向性などを確認し合う。

## X. おわりに

今回、当看護専門学校では統合実習の評価に初めてループリックを導入し、学生は統合実習で付けたい力が明確となり、自らの課題を意識して主体的に学習することができた。統合実習終了後の

実習指導者と教師の感想としても、ループリックは学生の状況や課題が明確になり、それを三者で共有しやすく、実習指導に役立てられるという意見が多かった。評価は学習を前進させるためのものであり、学習・指導・評価の一体化が図れることが重要である。今回取り組んだ統合実習でのループリックの活用は、まさにその一体化を図ることを目指す取り組みであった。今後は、さらに学習・指導・評価の一体化を図り、学生の看護実践能力が向上できるようにしていきたい。

本研究は、第46回日本看護学会看護教育学術集会で示説発表した。

開示すべき利益相反はなし。

## 引 用 文 献

- 1) 田中耕治. 新しい「評価のあり方」を拓く. 東京：日本標準, 2010. p55.
- 2) 安酸史子. 経験型実習教育 看護師を育む理論と実践. 東京：医学書院, 2015. p53.
- 3) 田中耕治. 新しい「評価のあり方」を拓く. 東京：日本標準, 2010. p55.
- 4) 田中耕治. 新しい「評価のあり方」を拓く. 東京：日本標準, 2010. p54
- 5) 松下佳代. パフォーマンス評価ー子どもの思考と表現を評価する. 東京：日本標準, 2012. p6.
- 6) 田中耕治. 新しい「評価のあり方」を拓く. 東京：日本標準, 2010. p55.